

令和元年度 長崎県立島原商業高等学校 学校評価表（自己評価）

校 訓	礼節・友愛・創造
教育方針	全生寮教育を通して「自他一如の精神（心）」を養い、知恵と勇気と行動力を備えた人間性豊かな人材を育成する。 【全生寮本旨】 一、自己のうちにもてる全てを 発揮して 生きよう 二、全ての 他の人を 生かそう 三、全ての 人とともに 生きよう
教育目標	(1) 商業および家庭に関する専門的知識・技能を活用して社会に貢献できる生徒を育成する。 (2) 思考力と判断力に基づく主体的な行動と自己管理ができる生徒を育成する。 (3) 多様性を認め共生社会の担い手となる人権意識の高い生徒を育成する。 (4) 仲間と切磋琢磨することで心身共に調和のとれた生徒を育成する。
生活信条	○ 挨拶（島商）しましょう。（心をつなぐ） ○ 掃除（島商）しましょう。（心をこめる） ○ 勉強（島商）しましょう。（向学心をもつ） ○ 部活（島商）しましょう。（心身を鍛える） ○ 奉仕（島商）しましょう。（思いやりの心をもつ）
キャッチフレーズ	～チャレンジ島商2019～ 共に学び、共に支え合う
前年度の成果と課題	(1) 全生寮研修で学んだことを日々の生活に活かしていくための指導を充実しなければならない。 (2) 学科の取り組みや頑張りをさらにアピールしていく必要がある。 (3) 多くの授業でICT機器が活用されているが、学びを深めるための方策が必要である。 (4) 自己評価の評価項目が、実態に即していないので再考が必要である。 (5) 校務分掌を4分掌へ統合したが、各分掌の教員の配置とバランスを考える必要がある。また、各分掌間と各学年間の連携をもっとはかかっていかなければならない。
重点努力目標	(1) 基本的生活習慣の確立 (2) 学力の伸長 (3) キャリア教育の推進 (4) 地域に開かれた学校づくり (5) 職員研修の充実 (6) 組織力の向上

評価 4：十分達成している 3：おおむね達成している ※（ ）は昨年度の数値
2：どちらかという達成されていない 1：ほとんど達成されていない

【評価分野】 1 学校経営						
評価項目	具体項目	目標	具体的方策	中間	最終	成果と課題
①学校教育目標	学校教育目標の具現化	学校の実態に即した目標を設定し、教職員の共通理解のもとに教育目標の具現化を図る。	前年度の本校教育課題や生徒の実態を踏まえた適切な重点目標を設定する。	3.3 (-)	3.4 (-)	わかりやすい重点目標で取り組みやすかった。
			校務分掌及び学年の経営方針にも学校教育目標を具現化する方策を盛り込んで実践する。	3.2 (-)	3.3 (-)	教務内規の改訂など、生徒の実態に合わせた実践が行われている。
			目標達成の度合いを年度途中で評価・確認する機会を設け、その後の教育活動に生かす。	3.2 (-)	3.3 (-)	中間評価の数値を基に、年度後半の業務に活かすことができた。
②学校経営方針	経営方針の明確化とその実践	経営方針が学校内外に明確に示され、教職員間の相互理解と保護者・地域の支持に基づく教育活動を行う。	教育方針や教育目標等を生徒・保護者・地域等に、説明や宣伝する機会を設け、定員確保に努める。	3.4 (3.2)	3.4 (3.1)	Challenge島商の発行で学校の状況が伝わり良かった。
			各教職員が経営方針を意識して教育活動を展開する。	3.1 (2.9)	3.2 (3.1)	キャッチフレーズがさらに浸透するよう、機会あるごとに話しをすべきだった。
			本校の教育課程を明確にして、中期的な学校ビジョンを検討する。	3.0 (-)	3.1 (-)	新学習指導要領に沿ったカリキュラムの編成が急務である。
③学年経営	学年目標の具現化	学校目標に沿った学年目標による経営を行う。	1年 全生寮教育を通して基本的生活習慣を確立させ、社会生活への適応力を養う。	2.7 (3.1)	2.5 (2.9)	全生寮研修が終わった後の生活指導が徹底できなかった。
			2年 日々の授業や家庭学習の充実を図り、学力向上に努めさせる。	2.6 (3.0)	2.6 (3.0)	家庭学習の指導と定着は本校生徒の課題である。全学年で対応を考えていくべきである。
			3年 面談等を通じて、早期に進路目標を決定させ、その実現に向けて努力させる。	2.9 (3.0)	3.0 (3.0)	概ね順調に指導はできている。生徒にはさらに努力を継続させたい。
			3年 規則正しい生活の中で主体的に考え行動する自主・自立の精神を養う。	2.9 (3.0)	2.6 (3.0)	長期欠席者はいなかったが、年間を通して遅刻の多い生徒が目立った。
④学級経営	学級目標の具現化	学校目標や学年目標に沿った学級づくりを行う。	進路指導の充実を図り、能力・適性を活かした進路実現を支援する。	3.3 (3.0)	3.5 (3.0)	月1回の学年だよりで今後の予定など保護者に周知できた。学年主任に感謝です。
			学校目標や学年目標に沿って、学級の実態に応じた学級目標を設定し、学級経営を行う。	3.2 (3.1)	3.3 (2.9)	指導に手を焼く生徒もいたが、学年で連携し迅速な対応ができた。

【評価分野】 2 教育活動						
評価項目	具体項目	目標	具体的方策	中間	最終	成果と課題
①教科指導	わかる授業の展開と工夫・改善ならびに適切な学習評価	生徒の実態に応じて教材の精選をし、各教科で創意工夫がなされた効率的な授業を行う。	生徒の家庭学習時間を一日平均1時間以上にし、基礎学力の向上を目指す。	2.3 (2.4)	2.3 (2.4)	家庭学習定着のための教材への工夫が不足していた。
			I C Tを活用したわかりやすい授業を実践する。	3.1 (2.9)	3.2 (3.1)	生徒が授業に集中するような工夫が必要。
		三年間を見通した目標を設定し、計画的な高資格取得を目指す。	習熟度・添削等、個に応じた指導を行い、各種検定の合格率を上げる。 観点別評価で生徒を多面的に評価する。	3.1 (-) 3.0 (-)	3.2 (-) 3.2 (-)	T Tや補習の成果があり、生徒は資格取得に意欲的に取り組んでいた。 各教科ともペーパー試験に偏らない評価ができています。
②特別活動	H R 活動や生徒会活動・学校行事の充実	生徒自身による自発的な活動を実践する。	各ホームルーム委員の積極的活動と校外外における一人一役を推進する。	3.2 (3.1)	3.2 (3.2)	ホームルーム委員は与えられた仕事をよく頑張っていた。
			生徒会・家庭クラブ活動を活性化して、地域行事やボランティア活動に積極的に参加する。	3.3 (3.3)	3.4 (3.6)	本校生徒はボランティア活動に積極的に参加し、地域貢献をしている。
③生徒指導	基本的な生活習慣の確立	全生徒教育の充実を図り、全教職員による継続した指導を徹底する。	授業の折には必ず礼儀作法・服装・学習態度(遅刻時の指導も含む)など具体的指導に努める。	3.1 (3.1)	3.3 (3.0)	時間厳守の指導をもっと徹底してすべきであった。
			交通ルールの遵守と自転車の二重ロックの徹底に努める。	3.7 (4.0)	3.5 (3.5)	地域の方から数件ご指摘があったが、生徒の大きな事故はなかった。
④進路指導	個々の生徒の能力の伸長と適性を活かす進路指導を図る	三年間を見通した効果的なキャリアガイダンスを実施する。	生徒、保護者への進路ガイダンスの実施と充実を図る。	3.2 (3.0)	3.4 (2.9)	各学年とも半数以上の保護者の参加があった。
			生徒、保護者への進路情報をこまめに提供する。	3.1 (3.0)	3.2 (3.1)	進路だより、キャリアポ通信を定期的に発行した。
			新たな進路先(企業・大学)の開拓を図る。	3.0 (3.0)	3.1 (2.5)	求人票が年々増加している。五輪後の求人が心配である。
⑤健康・安全教育	健康や安全に対する態度の醸成	健康・安全についての正しい知識と理解を深める。心身の健康の保持増進を実践できる生徒を育成する。	健康診断など保健行事を円滑に実施し、生徒の理解に努める。	3.6 (4.0)	3.7 (4.0)	計画通りに実施できた。機会あるごとに保健だよりの発行ができた。
			担任・部顧問・カウンセラー部との連携を図り、早期問題解決にあたる。	3.4 (3.0)	3.6 (3.0)	職員間の連携が良く、初期対応が早かったおかげで善処できている。
⑥人権教育	人権尊重に対する普遍的価値観の醸成	人権尊重に関する課題を認識させ、解決のための実践力を身に付けさせる。	人権教育の学習を通し、全生徒・職員の意識を高める。	3.4 (3.0)	3.5 (3.0)	職員研修や生徒への啓発も行うことができた。
	カウンセリングの充実	カウンセリングマインドを持って生徒の相談に応じる。	生徒理解のための諸検査を実施し、個別面談に活用する。	3.4 (3.0)	3.6 (3.0)	定期的にアンケートを実施し、その後の面談に活かすことができた。
			担任・他分掌・学年との連携を密にし、いじめやメール等の嫌がらせ・不登校の根絶を図る。	3.3 (3.0)	3.6 (3.0)	S N S ノートながさきを使ったメディア教育は良かった。
⑦特別支援教育	特別支援教育体制の整備	特別な教育的支援を必要とする生徒に対する支援体制の充実を図る。	特別支援教育コーディネーターを中心に、必要に応じて職員の指導力の向上を目指して研修を実施する。	3.3 (3.0)	3.5 (3.0)	職員研修で意識高揚を図ることができた。今後も多様な生徒への対応策を検討する必要有り。
⑧部活動	部活動の活性化	部活動の計画的かつ効率的な活動を目指す。	部活動指導ガイドラインに沿った計画的な指導を行い、部活動の活性化を図る。	3.2 (-)	3.4 (-)	部活動は本校の売りになっている部分が大い。顧問の体制や指導法を検討する必要がある。
【評価分野】 3 組織運営						
評価項目	具体項目	目標	具体的方策	中間	最終	成果と課題
①校務分掌	適切な役割分担・組織的な活動と運営	各自の役割分担を明確にして、適切に仕事を処理する。	校務支援システムを有効に活用し仕事の負担軽減を図る。	3.4 (3.5)	3.4 (3.3)	支援システムは負担軽減につながっている。
			学校全体の校務が円滑に推進できるように、分掌相互間の連携を図る。	3.2 (3.0)	3.3 (3.3)	ミーティングを通じて分掌間の連携をさらに密にしていきたい。
②各種委員会	目的に応じた適切な委員会の設置とその運用	各種委員会の活動の効率化と活性化を図る。	各種委員会での協議結果を、教育活動や学校経営に生かす。	3.1 (3.1)	3.1 (3.2)	会議の縮減の観点から委員会の必要性を精査するべきだと思う。
③校内研修	研修体制の確立と実践	職員研修の充実を図る。	全員、年に1回以上はI C Tを活用した授業を公開する。	3.3 (3.1)	3.3 (3.0)	I C Tが全てのクラスに設置されたのは良かった。
④教職員教育	教職員の資質向上への取り組み	教育センター等の研修に積極的に参加する。	各種公的研修会へ積極的に参加し、資質の向上と意識改革を図る。	2.9 (2.6)	2.8 (2.4)	授業の振り替えが難しく、参加できていない

【評価分野】 4 教育環境						
評価項目	具体項目	目標	具体的方策	中間	最終	成果と課題
①学校環境の整備	潤いのある生活環境・教育環境の整備	清掃活動を通じ、協調性や奉仕の精神を養い、創意工夫の心を培う。	全校生徒、全教職員で積極的に清掃活動に取り組む。	3.3 (3.3)	3.3 (3.3)	ほとんどの生徒が熱心に清掃に取り組むが、一部で手を抜く生徒も見られた。
②施設・設備の管理	施設・設備の安全管理と経費の節減	施設・設備の有効活用を図り、安全点検等の管理を適切に行う。	施設設備の安全点検を計画的に行い、必要に応じて改修や補修を行う。	3.3 (3.5)	3.4 (3.7)	計画的に点検はできている。不備が見つければ早めに申し出を。
			水道・光熱費、通信費等の節約に努める。	3.1 (3.0)	3.2 (3.0)	こまめに電源のオンオフは意識している。生徒の意識を高めていく必要がある。
③情報インフラの整備・充実	教育活動全般の情報化	情報機器等を使った校務処理を適切に行う。	パソコンとプロジェクターを使いこなせるように努力すると共に、教科指導などに活用する。	3.3 (3.1)	3.4 (3.3)	ほとんどの授業でICT機器の活用はできている。さらに効率的な活用法を勉強したい。
	ホームページの更新	学校の情報発信源とし、PRの手段とする。	ホームページを見やすくし、定期的に更新し最新情報を伝達する。	3.1 (3.0)	3.1 (3.0)	行事ごとに更新がなされている。古いページのまま残っている箇所があるので要検討を。
【評価分野】 5 開かれた学校づくり						
評価項目	具体項目	目標	具体的方策	中間	最終	成果と課題
①保護者との連携	PTA活動の充実	積極的に学校を開放し、地域からの信頼と理解を図る。PTA活動を活性化させる。	本校の教育活動を積極的に公開し、保護者や地域から信頼と理解を深める。	3.2 (3.0)	3.1 (3.0)	各種行事における保護者の協力は大きく、非常に助けられている。
			PTA総会や諸活動への参加率を上げる。	3.2 (3.0)	3.2 (3.1)	役員をはじめ多くの保護者が活動に積極的に参加されている。
②地域や関係機関との連携	学校間の連携の充実	他校や異校種との効果的な連携を図る。	県内の大学、近隣地域の高校・中学校との情報交換や連携を図る。	3.0 (3.0)	3.0 (3.0)	ふるさと教育もあり、大学・中学校と連携が図れた。
	外部講師の招聘	外部講師を効果的に活用する。	地域の人材を専門教科やHR等において効果的に活用する。	3.5 (3.5)	3.5 (4.0)	民間講師招へい事業では多くの外部講師に協力いただいた。
	学校評議員との連携	学校評議員会を充実させる。	運営方針等について学校評議員の意見を聞き学校運営に反映させる。	3.3 (-)	3.2 (3.5)	忌憚のないご意見を伺うことができ、教育活動に活かしている。
【総評】						
評価の結果 (課題と問題点)	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き家庭学習の習慣化が課題である。 生徒のマナー(モラル)の低下が多く見られるようになった。 挨拶をしない生徒が増えている。 教科指導+生活指導を学年単位で考える必要がある。 学年経営にもっと積極的に関わりたい。 全員がICTを活用した授業を公開するというのは少しハードルが高いと思う。 授業に真剣に取り組むことができない生徒が増えてきた。 検定試験等に意欲的に取り組むことができない生徒が増えてきた。 規範意識が低い生徒が増えてきた。 特別な支援を要する生徒に対して多くの職員で対応できた。 					
来年度の改善策	<ul style="list-style-type: none"> 定期的に課題を課し、学習せず点数を取れるテストを無くす。 教育目標(2)思考力と判断力に基づく主体的な行動と自己管理ができる生徒を育成する、に力を入れていきたい。 観点別評価をしっかりと取り入れ、計画的な指導をしたい。 わかる授業ができるよう職員がプロ意識を持って取り組む。 「わかる喜び」「自信」「達成感」を味わえる機会を増やす。 横の連携を密にして、小さいことでもダメな時はきちんと指導する。 「時間の厳守」「真心あいさつ」「マナーの向上」に努める。 今後も特別な支援を要する生徒に対して対応を考えておく必要がある。 					

令和元年度 長崎県立島原商業高等学校 学校評価 生徒アンケート集計結果

I 調査対象者数 314名(回答数311名)

II 調査回収率 99.0%

III 評価基準各質問に対して、

4: そう思う(あてはまる) 3: どちらかというと思う(ややあてはまる)
 2: どちらかというと思わない 1: そう思わない(あてはまらない)
 (ややあてはまらない)

項目	番号	内 容	1学年	2学年	3学年	全体	昨年
1 教育活動	1	あなたは島商の努力目標やキャッチフレーズ(共に学び、共に支え合う)を念頭に置いて行動している。	2.9	2.8	3.0	2.9	2.9
	2	あなたは積極的にあいさつを行っている。	3.4	3.4	3.4	3.4	3.5
	3	あなたは全生寮宿泊研修で養った精神を日頃の学校生活で活かしている。	2.9	3.0	3.0	3.0	3.0
	4	あなたはルールやマナーを守り、容儀や言葉遣いなどをきちんと行っている。	3.3	3.3	3.4	3.3	3.3
	5	あなたは日頃から周囲や相手のことを思いやって生活ができています。	3.4	3.5	3.5	3.5	3.3
	6	あなたは地域のイベントやボランティア活動に意識して参加している。	2.4	2.7	2.7	2.6	2.5
	7	あなたは部活動に熱心に取り組んでいる。	3.5	3.5	3.3	3.4	3.3
	8	先生方は生徒が校則違反をした時、きちんと指導してくれる。	3.6	3.5	3.4	3.5	3.4
	9	先生方は親身になって何事にも相談にのってくれる。	3.2	3.2	3.2	3.2	3.1
	10	島商は進路に関する情報を提供してくれる。	3.4	3.4	3.4	3.4	3.3
	11	島商では命を大切にする教育や人権・平和教育が行われている。	3.5	3.5	3.5	3.5	3.4
	12	島商ではボランティア活動など地域と交流する活動が行われている。	3.4	3.4	3.3	3.4	3.2
2 学習活動	13	あなたは進路や資格取得など目標を持って学習に励んでいる。	3.3	3.4	3.3	3.3	3.3
	14	あなたは家庭学習を1日60分以上行うよう努力している。	2.1	2.1	2.3	2.2	2.2
	15	島商の授業は工夫がなされ分かりやすい。	3.0	2.9	3.0	3.0	2.7
	16	島商の授業では教科書以外の補助教材や教育機器等が活用されている。	3.4	3.4	3.2	3.3	3.1
	17	島商では適性・進路に応じたコースや科目を選択する指導が行われている。	3.5	3.4	3.4	3.4	3.3
	18	あなたは政治や選挙に関心があり、自ら社会への参画を目指している。	2.5	2.5	2.8	2.6	
3 教育環境	19	島商では教育に必要な施設・設備が整っている。	3.0	2.9	2.9	2.9	2.9
	20	島商は清潔で清掃が行き届いている。	3.0	3.0	3.0	3.0	2.9
	21	島商では健康や安全に関する指導が行われている。	3.4	3.2	3.3	3.3	3.1
	22	あなたは環境問題に関心があり、ゴミ減量やリサイクル運動等を意識して取り組んでいる。	3.1	3.2	3.2	3.2	3.1
4 その他	23	島商の生徒会活動は生徒が中心となって運営している。	3.3	3.3	3.0	3.2	3.2
	24	あなたは学校の出来事を家庭で話している。	3.3	3.3	3.2	3.3	3.1

令和元年度 長崎県立島原商業高等学校 学校評価 保護者アンケート集計結果

I 調査対象者数 314名(回答数314名)

II 調査回収率 100.0%

III 評価基準 各質問に対して

4: そう思う(あてはまる)	3: どちらかというと思う(ややあてはまる)
2: どちらかというと思わない(ややあてはまらない)	1: そう思わない(あてはまらない)

項目	番号	内 容	1年	2年	3年	全体	昨年
1 教育活動	1	本校の教育方針や努力目標はわかりやすいものになっている。	3.5	3.4	3.3	3.4	3.2
	2	子供は全生寮宿泊研修で養った精神を日頃の学校生活で活かしている。	3.1	3.1	3.0	3.1	3.0
	3	子供は社会のルールや本校のルールを良く守っている。	3.3	3.3	3.3	3.3	3.3
	4	子供は地域のイベントやボランティア活動に意識して参加している。	2.9	2.8	2.8	2.8	2.8
	5	子供は積極的に部活動に参加している。	3.7	3.7	3.5	3.6	3.6
	6	学校では、容儀・マナー・あいさつや言葉遣いなどの指導は十分行われている。	3.5	3.3	3.3	3.4	3.3
	7	学校は子供に関する保護者の相談にきちんと対応している。	3.5	3.3	3.2	3.3	3.2
2 学習活動	8	子供は授業が分かりやすいと言っている。	2.9	2.9	2.9	2.9	2.8
	9	子供は進路や資格取得など目標を持って学業に励んでいる。	3.2	3.2	3.4	3.3	3.3
	10	子供には日頃から家庭学習を行うように声をかけている。	3.2	3.0	3.0	3.1	3.0
3 教育環境	11	学校は教育に必要な施設・設備が整っている。	3.3	3.1	3.1	3.2	3.1
	12	子供は環境問題に関心があり、ゴミ減量やリサイクル運動等を意識して取り組んでいる。	2.9	2.9	2.9	2.9	2.9
	13	学校は清潔で清掃が行き届いている。	3.5	3.4	3.4	3.4	3.4
4 開かれた学校	14	学校の施設は保護者や地域に開放されている。	3.2	3.2	3.2	3.2	3.1
	15	学校は学校の様子や諸行事に関する情報を家庭や地域にきちんと提供している。	3.3	3.2	3.2	3.2	3.1
5 その他	16	PTA活動や学校行事に進んで参加している。	3.0	2.8	2.9	2.9	2.9
	17	子供は明るく生き生きとした学校生活を送っている。	3.6	3.5	3.4	3.5	3.4
	18	子供は学校での出来事を家庭で話してくれる。	3.4	3.3	3.3	3.3	3.3